

留学決定に至るまでの経緯

安斉 周

こんにちは。安斉周といいます。2023 年秋から University of California, Los Angeles の Computer Science の博士課程に進学します。オペレーティングシステム (OS) を中心としたコンピュータシステムの研究をしています。

1 留学を目指すまで

学部生の頃は博士も海外も特に考えていませんでした。もともとは文 2 (経済系) で入学しましたが、理系の方が楽に就職できそう、興味本位で受けた電子工作系の授業が面白かった、等色々思うところがあり理転して工学部の電子情報工学科というところに進学しました。学科では友達と一緒に HCI 系のプロジェクトを進め、電子工作のコンペに出たり未踏に参加したりしました。研究分野的には最初は HCI や機械学習に興味があったのですが、いつのまにかシステム分野に興味を持っていました。

修士進学に伴い研究室を移り、OS 分野の研究を始めました。ここで親切な博士課程の先輩にお世話になったことで研究の面白さに気づき、博士進学を意識するようになりました。最終的には、あまり興味のある働き口がなかったことから、それなら研究で自分の好きなプログラムを書いていたほうが良いと思い、M2 に上がる直前くらいに博士進学を決めました。

海外博士の存在自体は知っていましたが、学部の GPA が低いのと、TOEFL を二度と受けなくなかったのと、特に発表論文もなかったことから、現実的な選択とは考えていませんでした。ただ、上記の博士課程の先輩に博士進学の相談をしたところ「OS 分野は海外の方が活発だから海外もアリだと思うよ」とのアドバイスをいただき、少し考え始めるようになりました。合格のためには少なくとも英語の勉強をしなければならないので迷いましたが、興味があるのに受験すらしなかったことを後々後悔するのが嫌だったので、結局頑張ることにしました。

2 出願準備

推薦状 (コネ) 最も重要らしいです。推薦状は修士の指導教員 (准教授)、共同研究した隣の研究室の先生 (准教授)、ドイツでの研究インターン先のボス (教授) に書いていただきました。志望研究室にインターンなどで行って実績を残すのが一番有効だと思いますが、そもそもインターンにたどり着くまでが大変です。所属研究室の先生が分野で強い場合、仲介に入ってインターンの推薦をしてくれることもあるらしいですが、特異なパターンだと思います。用意周到さが大事ですが、自分は用意周到にできませんでした。

実績 主著ワークショップ論文 1 本のみでした。修士卒ということもあり 1 本くらいは論文があったほうが良いかなと思ひ、出願を決意してから投稿しました。CS のシステム系においては、論文が 1 本あると研究力だけでなく「少なくとも自分はこういうシステムを実装するだけのスキルがある」ということをアピールできるため、そういう面では多少なりとも成果があったのではないかと思います。また、海外での研究インターンはプラスに働くと思ひます。自分は、ドイツでポストドクをやっている同分野の日本人の方がインターンを募集していたのがきっかけで、ミュンヘン工科大学で 3 ヶ月研究インターンを行いました。

SoP 志望理由書のようなものです。重要説と実はそんなに重要じゃない説があります。XPLANE のメンタリングサービスと船井の加藤先生にお世話になりました。大学によってはこれに加えてダイバーシティみたいな文章の提出を求められることがあります。

成績 足切り程度にしか使われないと聞きます。3.5 くらいあるといいらしいです。私は学部は 3.2、修士は 3.9 でした。都合のいいように計算して 3.2 なので、計算方法によってはもっと低いかもしれません。あくまで個人的な感覚ですが、修士卒でも学部の GPA はしっかり見られているように感じました。数校の教員と結構良い関係を築けていたと思ひていたのですが、面接にすら呼ばれなかったのもしかすると GPA で足を切られたのではないかと思ひています。

英語 TOEFL100 or IELTS7.0 あるといいとされています。嫌いなのであまりやる気が起きませんでした。修士入学時は 72 です。7 月くらいから少しずつ勉強し始めて、11 月半ばに 93 (R27, L23, S19, W24) になりましたがこれ以上は無理でした。日程的にもう TOEFL を受けられそうになかったので、IELTS に切り替えたなら 7.5 (R9.0, L8.0, S5.5, W6.5) 取れたので満足しました (11 月末)。ただ、振り返ってみると非営利団体に合計でウン 10 万払っています。

奨学金 分野ごとに重要度が違ふと思ひますが、CS は他分野に比べるとそこまでだと思ひます。船井含めて 2 つ出して、もう 1 つは途中辞退させていただきました。後々審査員の方にお会いしたときになんで採択していただけたのか聞いたら「オタクっぽいところが良かった」と言われ、オタクっぽくて良かったと思ひました。

3 出願結果

UCSD, UCLA, Berkeley, UW, Michigan, Columbia, MIT, Brown, Yale に出願しました。結果としては、UCLA のみ合格でした。UCSD, UCLA, MIT, UW のどこかしらに受ければ良いと思ひていたのですが、その中から合格をいただけたのは良かったです。ただ、1 校しか受からなかったのは少し残念でした。これから博士課程で力をつけていきたいです。

4 最後に

自分は何かを創る側の人間でありたいし、できれば世界の発展に貢献したいし、コンピュータをもっと速くしたいし、自分の書いたプログラムが世界中で動いていたらさぞ面白いだろうなと思ひています。今回の受験は自分がどうなりたいかを改めて考える良い機会になりました。出願をサポートして頂いた全ての方々に感謝します。前途遼遠ですが、少しでもこれらの理想に近づけるよう博士課程を楽しみたいです。